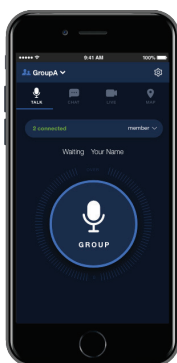


Buddycomを導入して良かったこと

# “バスの動態情報や会話内容がログに残り その後の災害検証にも役立ちます”

自治体

BCP 対策



原子力災害は一般的な災害と異なり、目に見えない放射線による影響があるため、住民の方のもとより、住民の方を支援する方々にとっても、なによりも情報共有が重要となります。Buddycomの利用に関してバスの運転手からは、「情報共有がリアルタイムにでき、話した内容とどこにいるかを北海道庁で管理され、とても安心感があった」という声がありました。

また、話した内容は音声と文字になって残りますので、聞き逃しても後から確認できるのが非常に良かったと思います。

道路渋滞情報や通行止め情報の画像をグループに一齐に共有できたことも効果的でした。話した内容や位置情報のログは、その後の災害検証でも非常に役に立つと思います。



## 導入前の課題

原子力災害時において住民避難用のバスの運転手へどのようにして情報を共有するのか、住民避難用のバスの運行状況をどのように把握するのが課題でした。従前は、従来のIP無線をバスに1台ずつ配備して情報共有等を行っていましたが、専用端末が必要なので調達までに時間がかかり、災害時に迅速に手配することが難しい状況でした。

## 導入した理由

住民のバス等での避難状況をリアルタイムに確認するとともに、バスの運転手への即時の情報伝達・情報共有、各災害対策本部等の多地点間での情報伝達・情報共有を行うため、Buddycomを活用し、車両動態管理及び情報伝達・情報共有に係る手順確認を行いました。スマートフォンが1台あれば使い始めることができるので、災害時にもすぐに用意ができる点が良いです。



# 北海道原子力防災訓練の 避難バスの動態管理と情報共有に利用。

今回は、泊発電所で何らかの原因で事故が起き、同時に雪崩などの北海道特有の冬季の雪害が起こったという想定の実験となり、バス車両動態管理の本部となった中央水産試験場では、道職員がBuddycomを用いてバスや役場との情報共有を行い、バスの動態管理はパソコンの管理画面で行われました。

住民避難用のバス19台には、Buddycomをインストールしたスマートフォンを持った道職員等がそれぞれ乗車し、BuddycomのGPS機能+動態管理+グループ通話を使って北海道庁や各災害対策本部等の多地点で車両の位置を把握できるようになり、また渋滞情報などを適宜バスの運転手へ伝達することが可能になりました。

各役場7箇所と避難先施設7箇所、合計30数台ほどのBuddycomが利用されたのですが、各地点の職員等も、バスの位置情報をマップ上で目視することができ、バスが来る時間を把握することができました。



## 使用した感想と周囲からの反応



Buddycomの活用により、随時、避難の状況を伝えることができ、関係機関と情報共有が図れました。アンケートでは、自分の町のみならず他の町村の動きも把握できたのでよかったとの声もいただいています。



株式会社サイエンスアーツ

WEB: [www.science-arts.com](http://www.science-arts.com)  
Service: [www.buddycom.net](http://www.buddycom.net)  
お問い合わせ: [info@science-arts.com](mailto:info@science-arts.com)

